

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ 五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第22回

足音の記憶

小学校のときの、サンダルをパタンパタンとのんびり(と私には聞こえた)響かせて教室にやってくる男の先生の足音。父兄参観日に参観を終えて、一斉に廊下や階段を移動する大人たちのスリッパのカタカタ音。体育館で掛け声とともに響く多様なスポーツの足音。ひと気のない美術館や博物館内、かかとの硬いよそ行きの靴によって響くコッソカツンという音。このように屋内の足音は、よく響き、どんな状況の音なのかわかりやすいからか、全般に安心して聞いていられる気がする。

一方、屋外での足音は、屋内のように音が響きづらく聞こえにくい場合が多いからか、なんとなく不安・不穏な印象を持つようになった。

例えば、小四のある日のこと。私は居残りだったため、夕方近くに一人で下校の途についた。誰も歩いていない田んぼの中の農道——土の上に砂利が敷いてあった——を歩いていると、後ろの少し遠くを上級生の男子が一人で歩いてくるのがわかった。勝手に乱暴そうと感じていた(温和な人だとわかったのは、ずっと後のこと)その男子は、私よりも歩くのが早く、この後私を追い抜いて行くことが明らかだった。幅狭の道のため、私のすぐ横を行く瞬間を思うと一気に緊張し、なぜか息を止めたのだった。彼が私を追い抜いて行く前中後のジャッジャッという

足音は今も忘れない。

また、勤めを終えて買い物をして、自転車を押して帰ってきた母のヒタヒタというゆっくりとした足音も、疲れが伝わってきてとても切なく、それを母が帰ってきたうれしさでごまかしたものであった。

以上は私の偏った印象であって、屋外の足音には悲喜こもごものさまざまな響きがあるのだろうと思う。

時代の変化によっても足音の質や量に変化があっただろう。古代、それから乗り物がまだなかったころ、そして車社会になってから……。そういうえば、樹木は振動(音)を感じているという。樹齢1000年以上という西蓮寺の大イチョウや、100年以上というカヤノキ、スダジイ、イヌマキなどの行方市の長生きの木たちは、そのときどきの足音を含んだ音を感じてきたはずで、いつかその木肌に触れてみたくなっ



小林 光恵さん

運動会でみんなで進んだとき、全員の足音がしていたはずですが、まったく覚えていません。

行方市出身。つくば市二の宮在住。昔のテレビアニメ『巨人の星』のスターティングで、ホームベースに飛雄馬が走りこむシーンの「ダダダダッ」という足音の効果音が、臨場感があって印象的でした。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム②

皆さん、こんにちは。地域おこし協力隊の高木です。

2月6日(金)、地域おこし協力隊の活動報告会が、関係者の方々向けに開催されました。

当日は、これまでの活動を振り返りながら、それぞれの協力隊員が思いのこもった発表を行いました。

3年目の終盤に入っている佐藤さんの発表では、約3年間にわたる活動内容が紹介され、ボリューム満点のスライドと工夫された構成で、聞いていてとても楽しい報告となりました。これまで積み重ねてきた経験や、地域との関わりが伝わる内容でした。

また、2月から新たに協力隊として着任したダシカさんの紹介もありました。モンゴル出身ですが、日本語がとても堪能なダシカさん。これからどのような活動を展開していくのか楽しみですね！

私自身も、行方市に来て約1年がたち、これまでの活動を振り返る良い機会となりました。来年度以降の活動については現在模索中ですが、地域の皆さんと関わりながら、引き続き前向きに取り組んでいきたいと思えます。(次号は、ダシカ隊員が担当します。)



▲ 行方市のために、これからも精いっぱい活動していきます



▲ 1年間の活動を発表しました



▲高木 桂子 隊員

【令和7年4月1日～現職】
観光資源の再発見や開発、市の魅力の情報発信、特産品の販売や地域資源を生かしたまちづくりに取り組んでいます。



Instagramはこちら